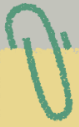
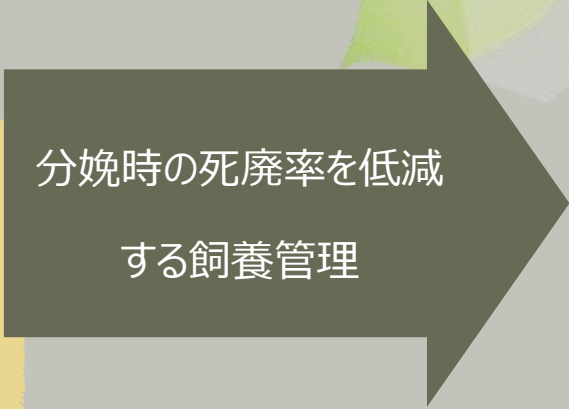


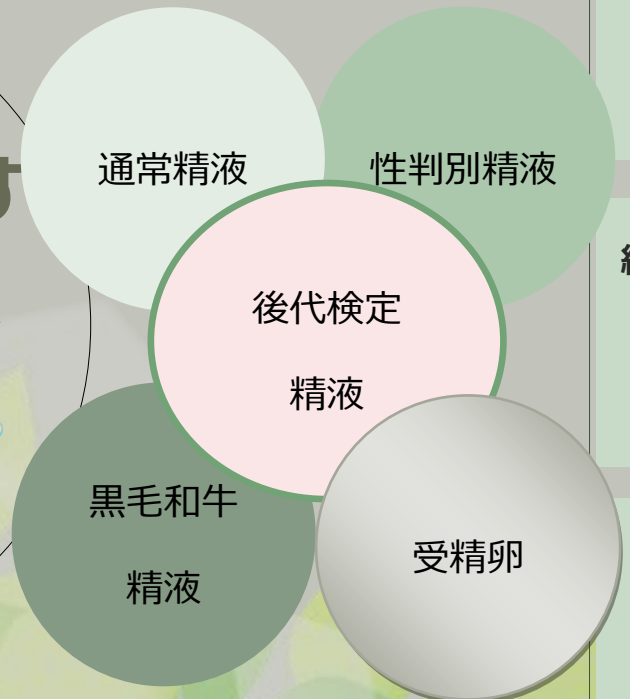
生産乳量維持拡大の技術的対応



経産牛頭数を確保



優良後継牛の育成確保



乳検成績を活かす
(畜産クラスタ事業を活用)



<p>分娩時の子牛死を減らす 死産率 6.2% (0~3.3%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 母牛は健康で乾乳期BCSが3.0~3.25程か 初妊牛は適正な精液で難産を防いでいるか 分娩看護を徹底させ介助のタイミングが適切か 分娩後速やかに初乳給与と寒さ対策は十分か
<p>母牛の周産期病を低減する 分娩後60日以内死産率 6.7% (0~3.2%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 密飼がなく分娩場所は快適で床は滑らないか 乾乳期は良質粗飼料で充足率を高めているか 乾乳の前後期のCaやミネラル給与が適切か 初妊牛の施設や群移動がスムーズであるか
<p>繁殖成績を良好にする 分娩間隔 430日 (358~731日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分娩前後をスムーズに移行しているか 発情牛は見逃しをなくし発見しているか 発情初期をとらえ適期に授精しているか 長期不受胎牛を適正に淘汰しているか
<p>経産牛の供用年数を増やす 除籍産次 3.5産 (2.5~4.0産)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 良質な粗飼料を主体に給与しているか 牛の本来の姿勢や行動を妨げていないか 牛床、飼槽、水槽の日常管理は十分か モニタリングで異常牛を発見対応しているか
<p>良質な粗飼料を給与する 乳脂率 4.02% (H19年 4.08%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 植生は雑草ではなく牧草が優先されているか 草地更新は10年に1回定期的に行っているか 刈り取り・収穫・調製の基本が守られているか 濃厚飼料だけを選び食いされていないか